



平成28年度 第4回理事研修会 道小大会運営研修会（反省会・引継会） 報 告

平成28年10月11日に道小大会運営研修会を開催して、小樽大会の反省と次期開催の宗谷・稚内大会への引き継ぎを行った。その中で、来年度の改善点をお話する。

1点目は、事務局幹事と大会実行委員会との連携についてである。

分科会運営役員の役割について、次年度も第1回分科会運営者研修会から明確にしていき、業務の見通しをもてるようにしていく。グループ編成については、司会者2名で話し合い役割分担をし、座席表や名札等は会場責任者にお願いする。

記録者や会場責任者は、大会前日の第3回分科会運営者研修会で初めて分科会打合せに参加することになるので、担当が決まった時点で、事務局幹事から「分科会の運営の手引」を送付し業務内容等について伝え、事前の準備について連絡・確認をしていく。

2点目は、各地区との連携についてである。

各地区の発表については、経験の少ない校長先生もいることから、地区全体での研究の取組と分科会運営者研修会での検討や運営者全体での関わりを基に、内容の充実を図っていきたい。参会者へ資料持参等の連絡が十分に伝わっていないことが散見したので、HP閲覧の呼び掛けを理事の先生、各地区の情報部の先生への働き掛けを次年度も継続するとともに、グループの司会・記録者への依頼の際などに同じ地区の参加者にもHP閲覧を依頼していく。

3点目は、参会者の当日の欠席連絡についてである。

参会者の当日の急な欠席連絡については、本年度も改善していったが、次年度は、参加者を集約している先生から実行委員会へ電話連絡が入るようにしていきたい。確実性を増したいと考えている。

4点目は、分科会の充実についてである。

「参画型」の分科会が定着してきており、今後は、提言への質疑や提言とグループ討議を関連付ける具体的な手立てや討議の見える化などの工夫をし、更なる参画意識を高めることに努めたい。

1 事務局幹事と大会実行委員会との連携について

○分科会運営役員の役割について、第1回分科会運営者研修会から明確にしていき、業務の見通しをもてるようにしていく。今年度は、下記の部分を明確にして準備・運営に当たっていった。次年度も踏襲していきたい。

- ①・グループ構成を考える人 ・グループのメンバーを決める人
 ・グループの司会・記録を決める人、それをお願いする人
- ②・座席表を作る人 ・名札を作る人 ・机の配置を考える人

司会者2名で話し合い役割分担をする。

会場責任者

○記録者や会場責任者は、大会前日の第3回分科会運営者研修会で初めて分科会打合せに参加することになるので、担当が決まった時点で、事務局幹事から「分科会の運営の手引」を送付し業務内容等について伝え、事前の準備について連絡・確認をしていく。

○事務局幹事とメンバーとの電子メール等による連絡のやり取りを大切に、分科会運営役員の情報共有を密に図っていききたい。

2 各地区との連携について

○各地区の発表については、経験の少ない校長先生もいることから、地区全体での研究の取組と分科会運営者研修会での検討や運営者全体での関わりを基に、内容の充実を図っていききたい。

○参会者へ資料持参等の連絡が一部伝わっていない様子も見られたので、HP閲覧の呼びかけを理事の先生、各地区の情報部の先生への働きかけを次年度も継続するとともに、グループの司会・記録者への依頼の際などに、同じ地区の参加者にもHP閲覧を依頼していく。

3 参会者の当日の欠席連絡について

○参会者の当日の急な欠席によって、急遽グループのメンバーを変更や司会・記録の役割をお願いすることもある。当日の欠席連絡が、迅速かつ確実に分科会運営責任者又は事務局幹事に伝わるように、次年度も連絡体制を整備していく。今年度は、各理事の先生から実行委員長へ電話連絡をする体制を取ったが、次年度は、参加者を集約している先生から実行委員会へ電話連絡が入るようにしていきたい。

4 分科会の充実について

○「参画型」の分科会が定着してきており、アナライズカード、資料持参、グループ討議の観点の焦点化によって参会者の参画意識を高める工夫もみられる。今後は、提言への質疑や提言とグループ討議を関連付ける具体的な手立てや討議の見える化などの工夫をしていきたい。

○グループ討議に分科会運営役員（記録者、運営責任者、趣旨説明者等）が参加することによって、分科会参加者との一体感が生まれ、分科会の充実の一助となった。次年度も全分科会で行うことを基本としたい。

5 全体会等について

○今回開会式後、分科会運営役員が準備で分科会場へ移動することなく、全連小会長の当面の諸課題を全員が聴くことができた。分科会運営役員の途中退席がないことが望ましいが、開催地区の事情を尊重しながら決めていく必要がある。

6 アンケートについて

○事後のアンケートについては、「適切」「改善を要する」の2段階から、「十分」「概ね十分」「やや不十分」「不十分」の4段階にして参会者の研修に対する満足度を聞くようにした。大会の目的に即した評価ということで、次年度も継続していきたい。また、アンケートの総数が200弱となっていることから、アンケート回答者が増える取組も考えていきたい。